

研究区分	教員特別研究推進（地域振興）
------	----------------

研 究 テーマ	孫育てを通じたシニア世代の交流に関する研究 －孫育て支援プログラムの開発に向けて－				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美
	研究協力者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	池田 麻左子
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発 表 者	所属・職名	看護学部・助教	氏名	大和田 裕美

講演題目
孫育てを通じたシニア世代の交流に関する研究 －孫育て支援プログラムの開発に向けて－
研究の目的、成果及び今後の展望
【研究の目的】 近年、女性の社会進出に伴い、妊娠・出産後も子育てをしながら就業を続ける女性が増加している。男性の育児休業取得促進のための施策により、男性の育児休業取得率は年々上昇し、子育てに積極的に参画する男性も増加している。しかし、育児休業の期間は、原則として出生した子どもが1歳になるまでと限りがあり、インフォーマルな支援として祖父母による子育て支援（以下孫育てとする）が注目されている。一方で、祖父母にとって孫育ては肯定的な経験にも否定的な経験にもなり得るものである。 研究者らは、令和6年度より、教員特別研究「孫育てをするシニア世代の交流の場ーじー・ばばカフェ（仮）ー」の効果（研究代表者：池田麻左子）」において、地域で孫育てに関わる祖父母等が集い、育児に関する情報提供と仲間づくりをすることを目的とした交流会「孫育てカフェ～語ろう じーじ・ばーばの孫育て～」を開催し、その効果について検討してきた。本研究では、その成果を踏まえ、引き続き孫育てに関わる祖父母の交流機会を提供し、孫育て支援の効果を検討するとともに、祖父母の孫育てを支援するためのプログラムを開発することを目的とした。 【研究の成果】 県内の2会場にて、「孫育てカフェ～語ろう じーじ・ばーばの孫育て～」を企画した。参加者数が所定の基準に満たなかったため、今年度は1会場のみの開催となった。プログラムは、参加者同士の孫育てに関する語り合いを中心に、最近の子育てや子どもの安全対策に関する情報提供のほか、今年度より子どもの一次救命処置体験を加え、所要時間は2時間であった。参加者は孫育てに関わる祖父母12名であり、男性3名、女性9名であった。プログラム終了後、参加者に対し任意のアンケートを実施した。参加動機は「孫育てについて勉強したかった」が最も多く、全員が「今後の孫育てに前向きになれる内容であった」と回答した。今年度よりプログラムに取り入れた子どもの一次救命処置体験については、全員が「今後の孫育てに大いに役立つ」と回答し、「気をひきしめる機会となった」「もしものときの対処法が理解できた」との意見がみられた。さらに、継続的な開催を望む意見も多くあった。 【今後の展望】 本研究の成果から、孫育てに関わる祖父母には、子育てに関する適切な情報提供や他の祖父母との交流のニーズがあると考えられる。特に、子どもの安全に関する情報提供と一次救命処置体験は、日常的に孫育てに関わる祖父母世代の関心が高いことが示唆された。一方で、参加者数が基準に満たず開催中止となった会場もあったことから、効果的な広報手段や祖父母世代が参加しやすい場所、日程での開催について検討が必要である。引き続き、孫育てに関わる祖父母にとって効果的なプログラム開発に向けて、研究を継続していきたい。